

- 事例等紹介編 -

1 自主防災組織の活動事例の紹介

県内で活発に活動している自主防災組織について、組織結成までの経緯や実際の活動内容を紹介します。

大船渡市 永井沢自主防災組織

結成までの経緯

昭和 53 年宮城県沖地震で、町内に多くの屋根瓦の落下、地割れの発生、擁壁の崩壊等の災害が発生した。消防艇で湾内を津波警戒活動中の消防団員が、海側より地域の被災状況を確認し、地域の安全は自分たちで協力して助け合い守ることが大事であると、町内会に働きかけ結成された。

組織の形態

組織の構成は、町内会役員及びその年度ごとの各班の班長並びに班ごとに選出された班員によって構成する。

| | | | |
|---------------------|--------------|---------------------|---|
| 自主防災組織本部長 (町内会長) | 副本部長 (3名) | 指揮本部(部長・副部長) 調査班 | 炊出し班 救護・防疫班(班長・副班長・班員) 誘導班(班長・副班長・班員) 情報伝達班(班長・副班長・班員) |
| (組織世帯数 240世帯) | | | |
| (隊員数 135人) 16.1.1現在 | | | |

- 永井沢自主防災組織 -

活 動 の 概 要

訓練

訓練は、毎年5月に行われる市の防災津波訓練に合わせて実施している。

市の防災津波訓練要綱に沿った内容で行っているが、事前に役員会を開き、前年の訓練での反省点を話し合いながら、訓練内容を検討し独自の訓練を展開している。

訓練で最も重視することは、その年の防災組織の班員として、常に防災意識をもち、非常時には一人ひとりが家族・家庭の安全を確保し、安全を確認した上で、自主防災組織に助け合いの精神で協力いただくことをお願いしている。

日々の活動

平成15年の連続した地震後、町内会で毛布を出し合い備蓄をはじめた。

地域防災マップと、防災マニュアルを作成し、常に地域住民の防災意識の高揚に努めながら、町内会主催の敬老会等の催しで、高齢者の様子をうかがい、常に状況分析を怠らず情報を共有している。

今後の活動

比較的地域住民の防災意識は高いレベルにあるが、大きな災害から立ち直るには地域社会の和が最も大事である。

人災、自然災害を問わず、よりよいコミュニティーが形成されれば、何よりも強いまちづくりにつながる。リーダーづくりと、他の地域の自主防災組織と共にワーク&ネット活動を展開し、研修を積みたい。

結成・活動のポイント

「気配りと思いやりで力を合わせ助け合おう」・・・を我が自主防災組織のスローガンに掲げている。

どんな災害に対しても対応できるよう、リーダーの育成と地域住民相互の信頼と和が深まる地域づくりが、更に安定した自主防災組織の継続活動のポイントとなる。